

学習内容報告書 フォーマット

学校名	大田区立大森第一小学校
授業者	柄澤 亮

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「ようこそ、私たちのまちへ」

1-2. 学年

第6学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

国語科

1-4. 単元の概要

産業・歴史・文化など様々な面から地域の魅力や特色に触れてきた。それらの中から、未来に残したい地域の特徴や、未来に語り継ぐためにできる具体的な行動について自分の考えをもつ。主張の異なるグループ間で討論を行い地域の良さだけでなく課題に目を向けさせていき、理解を深める。討論会では外部人材を招聘し、地域創成に対する願いを聞いてもらい、活動を価値づけてもらう。地域のステークホルダーからの助言を受けることで、発信活動への意欲を高める。社会科・総合的な学習の時間・道徳・図工などと関連付け教科横断的な計画を立て取り組んだ。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

〔自立〕・地域の良さや課題を理解し、必要な情報を収集しながら発信に向けての見通しをもつ。
〔共生〕・友達や地域の方と関りながら考えを深め、問題解決に向けて行動する。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

（1）E S D（持続可能な発展のための教育）の視点に立った学習活動の捉え方

本校では第1学年の学習から地域と関わり、地域を教材にして学びを組み立ててきた。第6学年では、過去5年間の地域を題材としてきた学習を振り返り、また小学校生活最後の1年間の学習を関連付けた上で、私たちの住む「大森のまち」のよさや課題は何か考えさせる学習を展開したい。

そのために次の4つの能力・態度を児童に身に付けさせることで、研究主題に迫ることができると考えた。

「未来像を予測して計画を立てる力」

1年生から5年生まで学習してきたことや、地域の歴史・現在の様子について振り返り、そこから児童一人一人が「大森のまち」のよさや特徴について考えることで、その未来像をもてるようにしたい。そこで1年後に迫った東京2020オリンピック・パラリンピックまでと、11年後の2030年のまちの未来像を考え、この間に自分が何をするのか、何ができるのか考えるきっかけとしたい。

「多面的・総合的に考える力」

E S Dカレンダーに則り、児童が教科等横断的な学習を進めるにあたって、個人の学びをしっかりと行わせることが大切である。児童一人一人がそれぞれの教科から学んだ知識を話し合いに生かすことで、互いの課題について主体的・対話的な話し合いが生まれ、深い学びができると考える。

「コミュニケーションを行う力」「つながりを尊重する態度」

地域で育つ子供たちが、互いにコミュニケーションを取り、この学習を通して得るものこそE S Dの本質であると言える。地域から学んだことを、自分なりに咀嚼して、学習の最後に表現・発信するなど再び地域へと返すサイクルになることを実感させたい。また、学習を通して地域とつながっている第6学年の児童の姿を、下学年の子供たちにも発信し、持続可能な学びへとつなげたい。

(2) 学年が考える“自分ごと化”

昨年度は、海ゴミの学習を通して学んだことから自分でも何か行動できることがあることを経験した。今年度の学習でも、今まで学んできた内容は互いに関連しており、自分たちが得た学びは必ず次の学びにつながることを、自分のこととしてとらえた学びから生まれる行動・活動は実現への第一歩となることを実感させたい。

(3) 深い学びを実現するSDGs

以上述べてきた児童の学習活動は、次の2つのSDGs「11 住み続けられるまちづくり」「17 パートナリシップで目標を達成しよう」へとつながることをつかませたい。自分たちが生まれ育った町に対し関わり続けること、学び続けることによって、いつまでも安心・安全に、そして誇りをもって住み続けることができる町になることを伝えたい。

また、そのためには自分一人だけではなく、友達や家族、地域の方々や各ステークホルダーとの人間関係・協力関係が必須であることも理解させたいと考える。

1-7. 単元の展開（全45時間）

過程	時	主な学習活動
つかむ	1～5	総合 SDGs とつながる大森の町 東京 2020 大会への関心を高め、1964 年オリンピックから地域の産業や文化、自然や住環境がどのように変化したかを知る。
調べる	6	国語「ようこそ私たちの町へ」 自分の町の好きなどころを考え、町のよいところや特徴について話し合う。
	7	パンフレットを集め、そこにどのような情報が書いてあるかを調べる。
	8	紹介したい町の良いところを決め、情報を集める。
	9 本時	集めた情報を共有し、ほかのグループと話し合いながら気付きを深める。
	10	情報を整理し、取材をする計画を立てる。

	11 12	地域の人材を学校に招き、グループ毎にインタビュー活動を行う。
	13	取材して得た情報を整理・分類して、発信活動（E S D集会）に向けて構成を練る。
発信①	時間外	E S D集会「ようこそ私たちの町へ」第1次報告会 1964 オリンピック前後の地域の変化、現在の大森の町の魅力の発信、今後の活動展開
考える・まとめる	14	社会 わたしたちの生活と政治
	15 16 17	地域で暮らしている人たちの願いと政治のつながりについて関心を高める。子育て支援や震災復興に対する政治の役割や仕組みを学び、自分たちの地域に置き換えて考え、課題を発見する。
	18 19 20	国語 「未来がよりよくあるために」 過去や現在を踏まえ、自分の町の未来について考える。未来に保存すべき過去の遺産・伝統・文化・防災・福祉・子育て等、課題を設定する。
	21 22 23 24 25	総合 未来に残そう、私たちのまち① 国語 「こども町づくり会議（学級討論会）」 国語科「学級討論会」の手法を使って、人材を招聘した「こども町づくり会議」を行う。テーマごとにグループに分かれ、地域の方を交えて意見交換会を行い、課題を解決する方法について考えを深める。
発信② 行動する	26	国語 「ようこそ私たちの町へ」 取材活動、意見交換会で得た情報や材料を吟味し、パンフレット、意見文等の構成を考え、目次作成と割り付けをする。
	27	発信する相手を意識して、表現を工夫しながら下書きを作成する。
	28	清書して作成物を仕上げる。
	29	作成物を読みあい、互いに助言しあう。
	30 ～ 34	総合 未来に残そう、私たちの町② 児童の願いから、地域に参画するイベントを企画する。環境の保全、社会奉仕の視点から、本校 PTA の組織と連携し、地域の清掃活動や、チャリティバザーの企画・運営を行い、社会参画の経験を積み重ねる。国語科の学習で作成した成果物を大田区議や海苔の資料館などの関係機関に提出しする。
35 ～ 40	図工 「わたしたちが創る 未来のまち」 過去・現在・未来の視点をもちながら大森の町のジオラマを作成する。ものづくりを通して自分たちが考えてきた、未来に残したい、語り継ぎたい地域の伝統・文化・産業・自然を表現する。	
振り返る	40 ～ 45	国語 「今、私は、ぼくは」 卒業文集の作成を通して、学習を振り返る。自分自身の将来にビジョンをもち謝恩会で短いスピーチを行う。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

2-2. 本時の目標

- 【自立】 地域のよいところや特色について自分の考えをもち話したり、聞いたりすることができる。
 【共生】 学んだり調べたりした内容と話し合う内容を関連させて話し合いに参加しようとしている。

2-3. 本時の展開

	活動内容	・指導の留意点 ◎ESDの視点に立った指導 ◆評価																		
導 入	1 これまでの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの設定した題材を確認するとともに、調査活動に向けて自分の考えをもっていることを確認する。 																		
	2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">地域のよさを再発見するために話し合い、つながりを見つけよう</div>																			
展 開	3 グループ内で情報を共有する <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;">話し合いのポイント ①各グループのつながりは何か ②取材する相手や方法 ③質問内容や調査方法 ④グループ内での役割分担</div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに、グループで必要な資料を用意し、自分の意見に自信をもって話し合いに参加できるように、ワークシートに個人の考えを記入させておく。 共有した情報から、新たな気づきや疑問をワークシートに追記させる。 ◆地域のよいところや特色について自分の考えをもち話したり、聞いたりしている。 【自立（未来）】 																		
	4 グループのメンバーを入れ替え、情報交換をする。（6グループ仮） <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">羽田空港</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">町工場</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">}</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">近隣寺社の祭り</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">D</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域の史跡（本門寺・貝塚）</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">}</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">E</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大森第一小学校</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">F</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">名産品（海苔・麦・グルメ）</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">}</td> </tr> </table> </div>	A	羽田空港	B	町工場	}		C	近隣寺社の祭り	D	地域の史跡（本門寺・貝塚）	}		E	大森第一小学校	F	名産品（海苔・麦・グルメ）	}		<ul style="list-style-type: none"> 異なるテーマで話し合いを行うことで、それぞれのテーマ同士が関連していることに気付かせる。 ◎他のグループとの情報交換を通して、自分達のグループが設定した題材とどのように関連しているかを意識できるように声をかける。 【⑥ - つながりを尊重する態度（関連）】 ◆学んだり調べた内容と、話し合う内容を関連させて話し合いに参加しようとしている。 【共生（関連）】
	A	羽田空港																		
B	町工場																			
}																				
C	近隣寺社の祭り																			
D	地域の史跡（本門寺・貝塚）																			
}																				
E	大森第一小学校																			
F	名産品（海苔・麦・グルメ）																			
}																				
5 学習のまとめを行う。 今日の話し合いを通して、分かったことや考えたことをまとめましょう。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いから自分たちのグループに生かせそうなことに目を向けさせる。 																			

まとめ	6 次時の学習課題を確認する。	・学習を振り返り、次時からの調査活動に向けて意欲を引き出す。
-----	-----------------	--------------------------------

3. 今回の活動の自己評価

児童は3年生から総合的な学習や社会科の学習を通して、様々な地域教材に触れてきた。3年生は町探検、4年生は地域安全マップ、5年生はマイクロプラスチック。6年生の学習では、今まで学習してきた知識や経験に関連付けて課題設定を行うために、本時の授業を計画した。自分たちの生活が地域の環境・経済・歴史と深くかかわりあっていることに気付かせ、今後学習する社会科の内容も生かしながら自分たちが暮らす「未来のまちづくり」に発展させていきたい。

4. 今後の課題

考えを整理しながら話し合いを補助するツールとして、ウェビングやベン図を用いた。児童が主体的に対話をするための効果的な手法について考えていく必要がある。ESD で身に付ける能力や態度について学校全体でどのように考え、児童の実態に即したものにしていく。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 地域との連携やゲストティーチャーを招聘するタイミングによって児童の思考や活動の流れが活発になる。長い単元の見通しをもつ。
- 児童の成果物の外部公開、児童による発信活動を積極的に行った。個人情報への取扱いに注意をはらった。

【区内観光パンフレット調べ学習で使用】



【開校140周年記念誌 調べ学習で使用】

